

第3部 足もとに迷惑施設の計画が 来たときどうするか

Bioregionalism (流域の思想) を基本に

NIMBY (Not In My Back Yard

「うちの裏庭はやめて」) から

NIABY (Not In Anybody's Back Yard

「誰の裏庭にもつukらない」) へ

仁保自治会長 山本 繁 正



かな自然に囲まれた仁保の山々も、来るべき厳しい冬に備えてか
かにその装いを整えて参りました。

て、今年年明け早々に山口市当局から「山口市一般廃棄物最終処
の立地を、仁保地区に容認して欲しい旨要請がありました。

保自治会では、事の重要性に鑑み7月15日仁保地域開発協議会が福岡県庄内町を、ま
浦地として検討が進められております一貫野集落の皆さんが9月4日岩国市を、更に10
日自治委員の皆さんが同じく岩国市の最終処分場を視察されるなど、鋭意検討協議を重
結果を以下の通りご報告申し上げ、正しいご判断とご理解を頂きますようお願い申し上
す。

このことについては強いご懸念をお持ちの方も多々あること、充分承知しておりますが、
稿で詳しく述べておりますとおり、「他人任せ」「よそへ持っていけ」だけでは済まされ
事だと考えております。「自分たちの安全は、自分たちが守る」事こそ最も肝要と思っ

予定地とされる ふしの川最源流部





予定地とされた場所

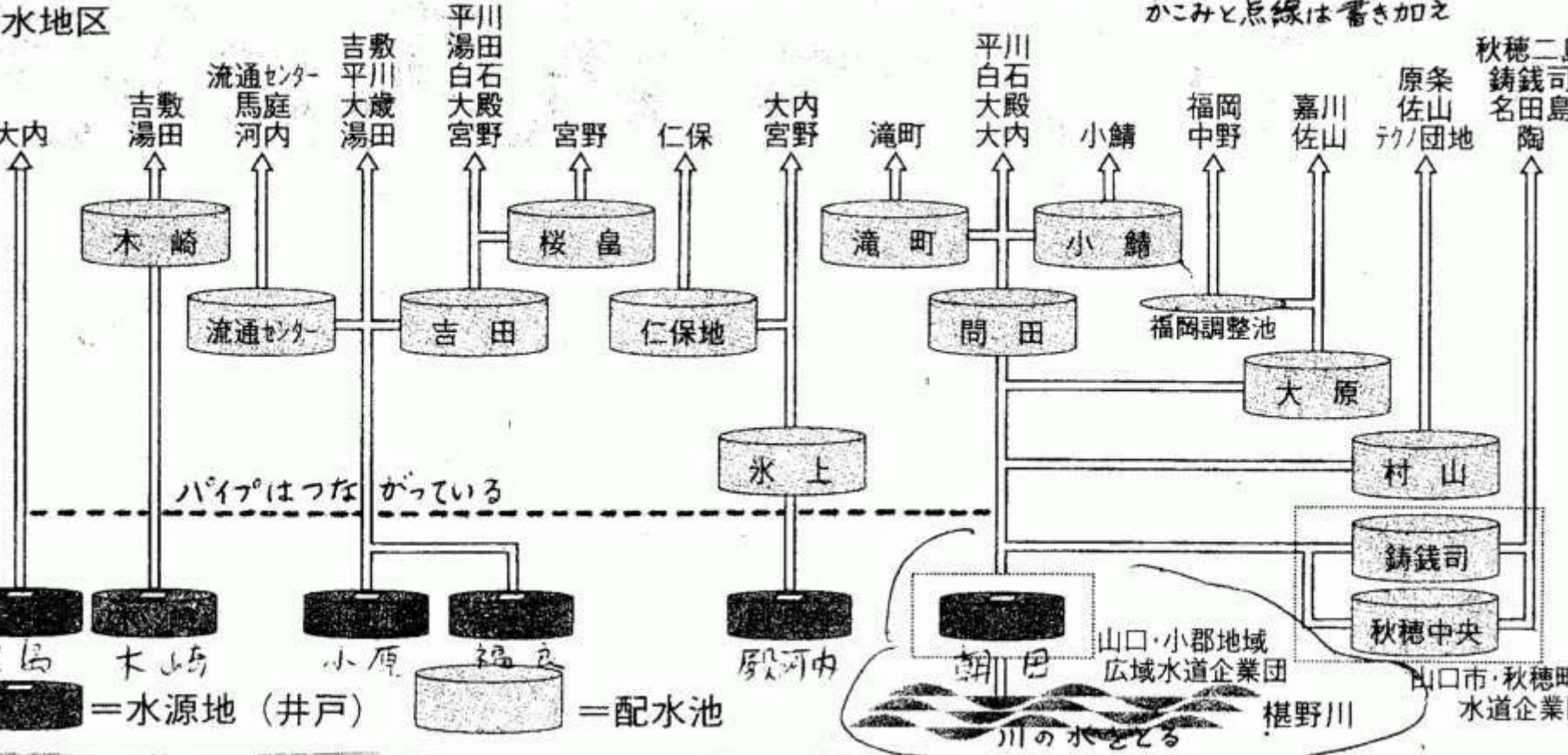


飲み水の上に処分場をおけばどうなるか



水道水の流れ

市報やまぐち 8/15 所載
かこみと点線は書き加え



反論ヒラやHPもソフト路線で

『自治会だより』の「美しい言葉」の正しい読み方

自治会だより』には、美しくかざった言葉のかけに、驚くべきたくさん「嘘とごまかし」がかけられています。住民の皆さんの正しいご判断をお願い...

	『自治会だより』の美しい言葉=ウソの宣伝	ところが実際には=事実 (+「美しい言葉」の正しい読み方の解説)
自治会だより(あい)	●「市当局から仁保地区に容認してほしいと要請があった」	市は、小鱈、平川、吉敷、仁保などに情報提供を要請し、他の自治会長からは無回答で、仁保自治会長だけが積極的に手を挙げました。 (←事実とは逆で、何らかの意図で仁保自治会長が誘致したといえます。)
自治会だより(あい)	●「他人任せ、よそへ持っていけ。だけでは済まされない事」	一貫野へ設置しようとしている処分場は、合併後の19万市民と新市のエリアの家庭ゴミと3倍の事業所ゴミを埋め立てるものです。 (←あたかも仁保の家庭ゴミだけを引き受けるかのようなゴマカシです。)
自治会だより(あい)	●3. 埋め立てる物 「埋め立てる物は、家庭等から出る一般廃棄物」	平成15年度の実績で家庭からは3,647トン。事業所からは10,916トンでした。 (←つまり家庭ごみは全体の4分の1にすぎません。事業所ごみは分別が遅れているので中間処理施設も必要なのです。)
自治会だより(あい)	●水処理施設 の説明	大切なのは、結果的にどういう水質の水を出すかです。市環境部は「きれいだが飲めない水」の説明しました。一貫野集会で岩国処分場での具体的な数値を上げて質問したところ、市は回答をきませんでした。(←どんな処理をするのかのたんなる説明だけで納得することは危険です。)
自治会だより(あい)	●【いま何故仁保か】の中の「安心安全は廃棄物を見届ける事で確保され、目の届くエリアに設定することが一番確か」	予定地は一貫野のもっとも山奥の小鱈側に入ったところです。両部落の上の処分場跡の木戸山に行く道は、今で誰も行かないところになったためオオヤブになっています。 (←「目に届くエリア」なら、山奥でなくゴミを出す人口の多い所こそ見届けやすいでしょう)
自治会だより(あい)	●2ページ【いま何故仁保か】の中の「廃棄物を仁保地区外へ持ち出すことによるのみ維持された仁保の環境」。●3ページの「環境に負荷を与える物質を自分たちの生活エリアの外に駆逐することのみによって保たれてきた」	仁保地区はこれまで、両部落の奥(浅地川源流=木戸山)に昭和43年から57年までに24,000立方メートル、深野や丸山、北河内への埋立も含めると4ヶ所で275,300立方メートル、山口市全体の実に28%のごみを引き受け埋め立ててきました。「仁保地区外へ駆逐」するどころか、これまでに山口市のごみ処分場行政に多大な貢献をしてきているのが事実です。 (←一貫野への誘致を正当化するための大ウソです。)
自治会だより(あい)	●「ふしの川の源流を守る運動との整合性」の中の「公設公営であるべきでその場合には決して反対するものではない。事を当時から明確にしておき」「出席頂いた全員のご賛同を頂いております」	5年前の運動の核心は源流部を汚す「産廃」阻止だったのです。一般廃棄物が問題になったのはありません。1300万円もの浄財を寄せた多くの市民から「今回のごみ処分場設置は、源流部を守る運動と完全に矛盾する」との強い批判の声が署名行動の中でたくさん寄せられ、返金要求を出始めています。(←「問題ないならあの場面に誘致したら」といわれたら返事でできませんね。)
自治会だより(あい)	●【ごみ問題に関する現状認識】の中の「自らの問題として真正面から向き合って真剣に考えなければならない時期にきている」	一見正しい発言ですが、ゴミを出す住民が多く住み、これまでにゴミ処分場を受け入れたことのない自治会とその住民にこそそういうべき言葉です。 (←反論しにくい一般論にすり替えて、なぜ仁保自治会長だけが手をあげたか、という疑問をさえるための典型的な手口です。だまされないように気をつけましょう。)
自治会だより(あい)	●【これからの取組】の中の「管理する人間は時間の経過と共に慣れ、怠慢から事件事故を起こした例は少なくありません」	ゴミ処理について怠慢から事件事故を起こしたというのが本当なら大変なことです。それこそ源流への設置はごめんです。素人である一般市民が参加しても専門的な監視ができるはずがありません。(←監視と称する取り組みの本当の目的は、別のところにある可能性が大了。)
自治会だより(あい)	●《ふしの川流域のくらしと環境を考える市民の会からのお知らせ》の中の団体代表名とその氏名の一覧表。	気をつけて読みましょう。「ご案内した団体等と代表者のお名前」です。参加者または賛同者ではありません。「処分場を仁保に誘致するには絶対反対なのに勝手に名前を出されたから抗議する」と言っておられる方もあります。(←各階各層の市民団体が賛同しているかのように見せかける巧妙な手口です。また実際は、市職員が受付をし会費も集めた山口市おかかえの会です。)

民のみなさんに仁保発の情報をとおとけするホームページを開設しました。http://niho.jp/です。メールのご意見も gomi@niho.jp あてお寄せください

反対する理由はいろいろあります



山口市の廃棄物最終処分場



予定地放置のまま

山口市が、同市秋穂二島で進めていた一般廃棄物最終処分場の整備計画が、高潮被害や建設費の問題などで宙に浮き、土地の取得や水路の整備などに約3億円をかけた予定地が、放置されたままになっている。

想定外の塩害 対策に数十億円

整備途中で放置されたままになっている山口市秋穂二島の予定地

建設急務でも
候補地

市環境保
予定地は塩
00平方
約1億500
した。約22
物を処分でき
03年度か
から15〜20
をする計画
しかし、
廃棄物処分
塩害が出た
台風18号に
くの堤防が
海水につか
ら、住民ら
り、反対の
土地購入
ていなかっ

バイオリージョナリズム(「流域の思想」)

水と大気の循環の中で地域をとらえる
わたしは「榎野川流域」のいのちの一員

人間が引いた境界に自然はしばられない
「地元とはなにか」に気づき、暮らしを変
えるための考え方のひとつ

チェルノブイリ事故以来、地球全体がひと
つの流域になった

EXAMPLE (見本) の力 百聞は一見にしかず

あたまで (は) わかる (理解)

こころからわかる (納得)

ひとりでにからだがうごく (体得)

12年で70%をグリーン電力として地域自給を達成したスペイン・ナバラ州



しまくとち県民100人とともに(2006年5月)

